

■ 事業のセールスポイント

ターミナル立地の広大な都市公園を有するうめきた2期地区や、国際集客拠点をめざす夢洲地区において、**最先端技術の導入・実証実験の実施**を行いやすいグリーンフィールドとしての特性を活かし、**豊富なデータの利活用を実現するプラットフォームを整備し、“事業創出”・“市民のQOL向上”・“マネジメントの高度化”**に資する施策に官民の枠を超えて取り組む

位置図



■ 対象区域の概要

- 名称 うめきた2期地区、夢洲地区
- 所在 大阪市北区大深町ほか
- 面積 うめきた2期:約17ha
夢洲:約225ha(万博予定地区等)
- 人口 うめきた2期地区居住約1300戸

■ 対象区域のビジョン

- 大阪・関西は、「日本の成長をけん引する東西二極の一極（副首都）として世界で存在感を発揮する都市」を目指し、次のビジョンを掲げる
- 【ビジョン①】人が集う
- 【ビジョン②】充実したインフラ
- 【ビジョン③】魅力的な環境
- 【ビジョン④】強い産業・技術

■ 本事業全体の概要

各分野で得られたデータを横断的に統合し、「生活者」視点のスマートシティ、「都市管理者・運営者」視点のスマートシティを両立させることを検討する。

課題	施策	目指す姿
高齢化社会に対応した、きめ細かな都市内モビリティ確保	都市内モビリティ ・ラストワンマイルの移動快適性やまちの回遊性の向上に向け、自動運転バスやパーソナルモビリティの導入・実用化を行う	将来的に公道等も含めた運用も見据えつつ、市民のストレスフリーな都市移動と、渋滞緩和・人材確保等の課題解決の実現を目指す。
施設の長寿命化、人材不足	先進的な維持管理・運営 ・AI等の最先端技術を導入し、まちの維持管理・運営の省コスト化を図る ・またロボット等導入により、省人・省コスト化が可能な管理運営手法を導入する	先進技術や収集データをもとに効率化・最適化され、利用者の声も積極的に取り込むことで高度化された、新しい維持管理・運営モデルの構築を目指す。
地球温暖化対策に係る社会的要請、巨大地震、パンデミック等有事への対応	環境・防災対策 ・まちの状況を可視化によるエビデンスベースでの環境・防災施策を導入する ・ポストコロナを見据えた、ロボットによる有事の非接触型の業務を実現する	新しい低炭素モデルのショーケースを目指す。有事の際は、迅速かつロボット等を活用した避難誘導を実現を目指す。
住み続けたいまちづくり、イノベーションによる関西経済の浮揚	ヒューマンデータの利活用 ・ヒューマンデータを収集し、市民のQOL向上や事業創出につなげる仕組の構築を図る	市民からの消費者としての声やヒューマンデータの提供を通じ、生活者視点に基づく事業創出、市民のQOL向上の促進を目指す。また、市民が新製品・サービス開発に積極参画するまちの実現を目指す。
	まちの貢献ポイントの導入 ・市民のQOL向上と地域活性化に向けて、「まちの貢献ポイント」の導入を図ることにより、市民のまちの活動への積極参画を促進する	
施策横断的な取組方針 ● まちのマネジメントデータ・ヒューマンデータの横断活用を検討し、スマートシティの深度化を目指す ● 実証実験フィールドとしての特性を活かし、他では得られないデータの取得を目指す ● 提案地区における平時の経済活動及び非常時の災害対策等の各種サービス実施を支える、屋内・外の5G通信基盤を整備する		

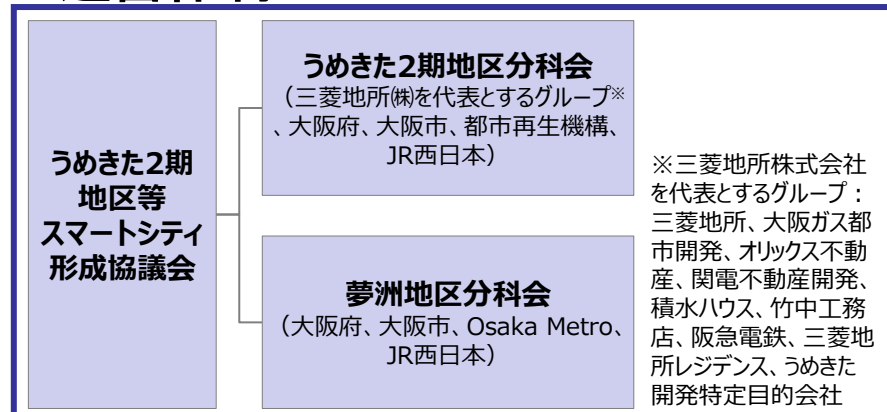
うめきた2期地区等スマートシティモデル事業 (うめきた2期地区等スマートシティ形成協議会)

■ スマートシティの目標(KPI)

事業創出	● 街区で取得したデータの利活用を通して生まれるプロジェクト数 など
QOL向上	● 提案地区で構築予定の会員プログラムの登録者数 ● 市民主導・参加型プログラムの実施数 ● 就業者の交流促進サービス数 など
マネジメント高度化	● AEMS・ZEB等によるエネルギー利用削減率 ● ロボットやAI等を活用したスマート管理による、建物・公園の維持管理の省人・省コスト効果 など

※ 項目については暫定案を記載。今後、具体化を検討

■ 運営体制



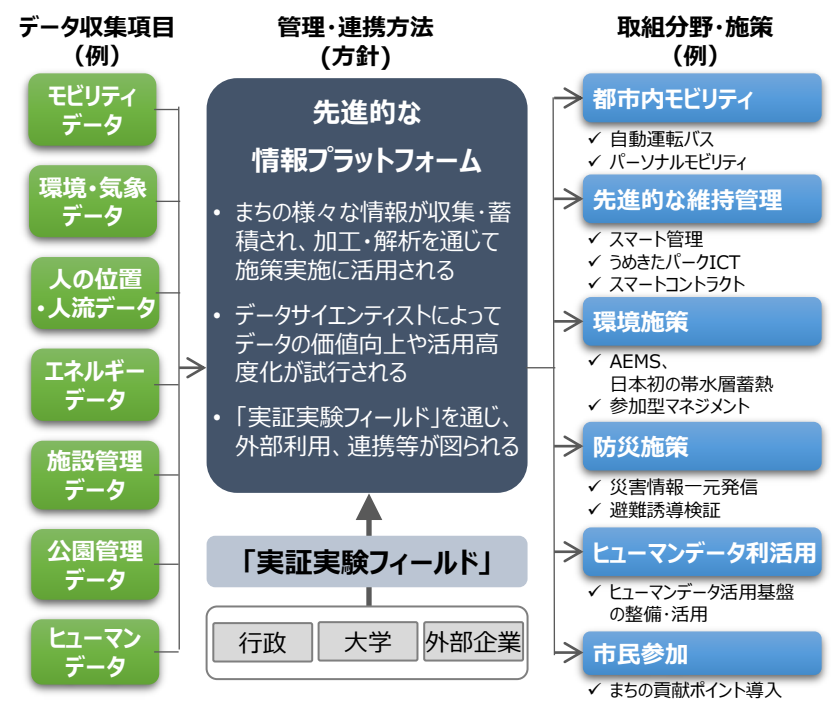
■ 導入技術

<各施策の取組内容・導入技術>

(*) : 先進性を伴う内容

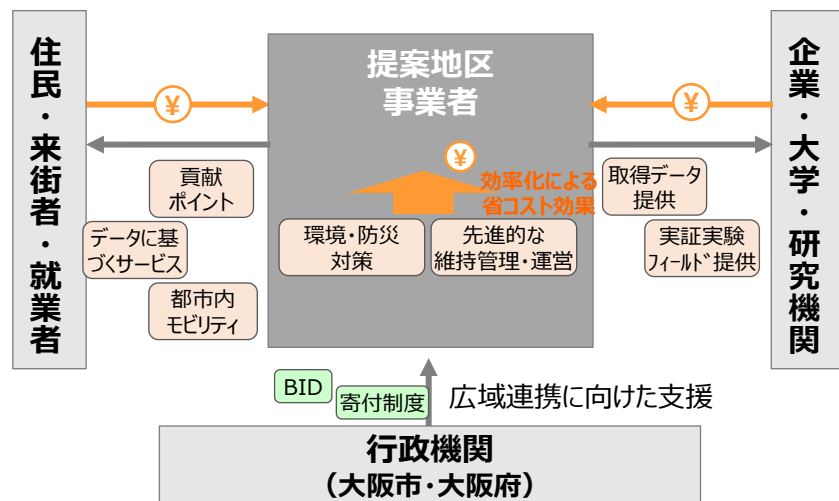
都市内モビリティ	◆ 新たな技術を駆使した自動運転バスやパーソナルモビリティ等の導入に早期に取り組み、都市内モビリティの向上に取り組む (※遠隔で速度制限可能なパーソナルモビリティは先進的)
先進的な維持管理・運営	◆ ロボット・ドローン導入による維持管理・運営の省人・省コスト化 ◆ 管理データのプラットフォーム化やAI活用による、建物のスマート管理 ◆ 管理データや利用者の声等の統合管理による、公園管理高度化 (※遠隔での作業指示や音声蓄積による公園維持管理は先進的) ◆ スマートコントラクト技術を活用した公園手続きの一元化
環境・防災対策	◆ AEMSや帯水層蓄熱など先端技術の導入、省エネ活動へのテナントの参加促進によるまちの省エネ化 (※帯水層蓄熱は日本初の取組) ◆ 災害情報一元管理・人流データによる避難計画等、防災施策高度化 ◆ ロボット導入により、ポストコロナなども見据えた非接触型の避難誘導・接客等を実現 (※5G環境下でのロボット多数同時接続も検討)
ヒューマンデータの利活用	◆ ヒューマンデータ活用基盤の構築を図る
まちの貢献ポイントの導入	◆ 市民のQOL向上と地域活性化に向けて、「まち貢献ポイント」の導入による、まちの運営への市民の積極的な参加の促進・ヒューマンデータ収集を図る

<データ利活用方針>



うめきた2期地区等スマートシティモデル事業 (うめきた2期地区等スマートシティ形成協議会)

■ ビジネスモデル



<持続可能な取組とするために工夫する点>

- 提案地区の**管理・運営コストを削減**しつつ、取得データを活用し、**市民のQOL向上に資するサービス提供、企業への事業創出の機会提供**を行うことで**エリア価値を向上**し、持続可能なスマートシティモデルを実現する
- また、BIDや寄付制度等の枠組みを活用も視野に、**官民連携によるスマートシティの実現**を目指す

<本年度実証で工夫する点>

- ポストコロナも見据えた、**ロボットによる非接触型管理業務の実証**や**都市公園の人の粗密状態の可視化・情報発信の実証**を行い、BCP機能に優れた技術の課題や有用性を検証する。
- **公園管理の効率化、ロボット遠隔操作を検証**し、開業後のICTを活用した**管理・運営の有用性**を検証する

■ スケジュール

<長期スケジュール>

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	～
まちづくり スケジュール(予定)	うめきた2期着工 ▼			うめきた2期 一部先行街開き ▼		大阪万博 ▼	
都市内モビリティ	実証実験の実施、実用化					近隣エリアへの展開 地区間連携の検討	広域化・高度化の検討
先進的な維持管理・ 運営	実装に向けた検討 (技術動向の注視、 ハード・ソフトへの反映)				運営 検討		
環境・防災対策							
ヒューマンデータ活用	試験運用 (想定)						
まちの貢献ポイントの 導入（市民参加）	実装に 向けた 検討	開発と件の 整理等					他都市への横展開

<短期スケジュール(予定)>

- 本事業の施策・目指す姿・導入技術の妥当性や方法の検証、および導入判断に向け、2020年度は、6つの施策のうち、“**都市内モビリティ**”・“**先進的な維持管理・運営**”・“**防災対策(BCP)**”の分野について、実証を通して重点的に検討する予定

		2020年		2021年
		8-9月	12月	3月
都市内モビリティ	パーソナルモビリティ実証	協議等	実証 結果整理	継続的に検討
	来街者・属性分析実証	企画整理	実証	結果整理
先進的な維持管理・運営	遠隔緑地管理システム実証	システム開発	実証	結果整理
	遠隔操作ロボット実証	企画整理	実証	結果整理
防災対策	その他施策	実装に向けた検討		

※コロナの状況により、上記予定は変更の可能性あり

※夢洲地区分科会はOsaka Metroにおいて市内でのオンデマンドバス実証実験を実施予定

うめきた2期地区等スマートシティモデル事業 (うめきた2期地区等スマートシティ形成協議会)

うめきた 2 期地区

ターミナル駅への隣接性や巨大な「みどり」を活かした先進的・将来的・汎用的なスマートシティ施策

夢洲地区

国際集客拠点化に向け、最先端技術を活用した円滑で快適なモビリティの実現

環境・防災 対策



まちの貢献ポ イントの導入



都市内 モビリティ



ヒューマンデー タの利活用



先進的な 維持管理・運営

